

EarthFinder
MarketFinder@sp
オリコミタウンハイブリッド版

Ver3.9.2 追加／改修機能のご紹介

2023/07/13

目 次

はじめに	1
1 スパイダー表示に各プロット間の直線距離を表示／出力する機能を追加	1
2 プロットプロパティダイアログの「マルチメディアデータ」操作エリアに「表示」ボタンを追加	2
3 自動マッチングダイアログの住所名タブを削除	3
4 ローカルエリアの保存ボタンをパネル上に追加	4

はじめに

本書では、EarthFinder Ver3.9.2 で追加／改修した機能の紹介を行います。

EarthFinder の ASP サービス版である「MarketFinder@SP」、オリコタウンに MarketFinder の機能が追加された「オリコタウンハイブリッド版」も、同じ GIS エンジンを利用していますので、ここで紹介する機能が適用されます。

文書中では「EarthFinderVer3.9.2」と記載しますが、「MarketFinder@SP」「オリコタウンハイブリッド版」のユーザの方は適宜お読み替え下さい。

EarthFinderVer3.9.2 では以下の機能を追加／改修しました。

【プロット機能】

1. スパイダー表示に各プロット間の直線距離を表示／出力する機能を追加
2. プロットプロパティダイアログの「マルチメディアデータ」操作エリアに「表示」ボタンを追加
3. 自動マッチングダイアログの住所名タブを削除

【エリア機能】

4. ローカルエリアの保存ボタンをパネル上に追加

1 スパイダー表示に各プロット間の直線距離を表示／出力する機能を追加

スパイダー表示機能において、起点とリンク先間の距離を知りたい、というご要望に応じて、

・画面上での距離表示 : 「距離ラベルを表示」チェックボックス

・ファイルへの保存 : 「距離を CSV に保存」ボタン

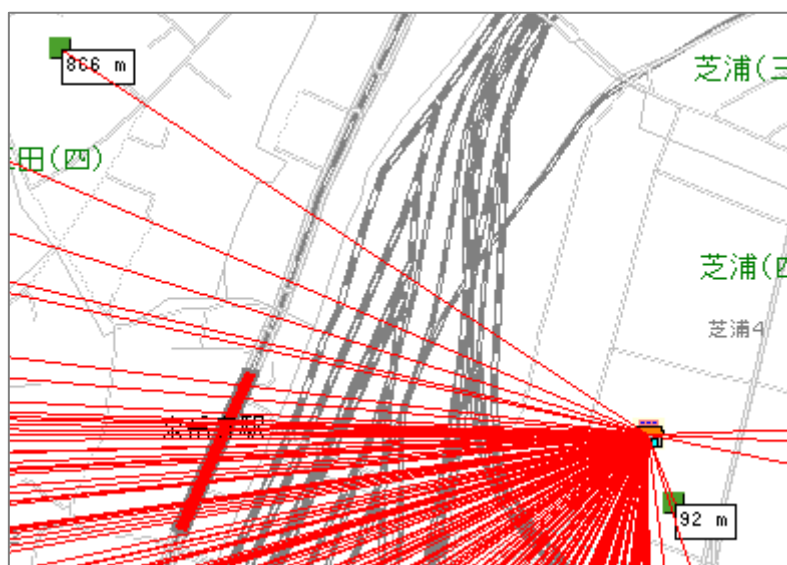
を追加しました。

【画面上での距離表示】

スパイダー表示ダイアログに「距離ラベルを表示」チェックボックスを追加しました。



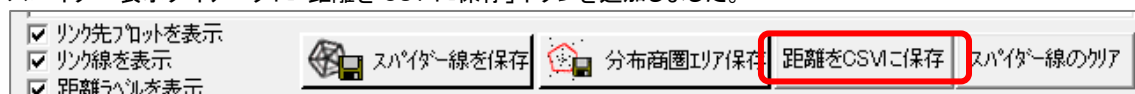
このチェックが ON のとき(スパイダー表示直後は ON)、画面上のリンク先プロット右下に起点との直線距離が m 単位で表示されます



ラベルの表示属性は以下で固定となっており、変更はできません。位置:プロットの右下、枠線:あり、太さ1、余白:上下左右1、フォント:MS ゴシック、8ポイント。
チェックを外すと、ラベルは消えます。

【CSV への保存】

スパイダー表示ダイアログに「距離を CSV に保存」ボタンを追加しました。



このボタンを押下すると、保存先ファイル指定ダイアログが表示されます。

このダイアログで保存先フォルダと、保存ファイル名を指定します。

指定されたファイルに起点とリンク先間の直線距離が CSV で保存されます。

保存する内容は、「起点プロット名」、「リンク先プロット名」、「2点間の直線距離」の3項目です。

起点,リンク先,直線距離(m)
東京支店,東京学芸大学附属世田谷小学校,8238
東京支店,港区立御田小学校,866
東京支店,港区立港南小学校,1109

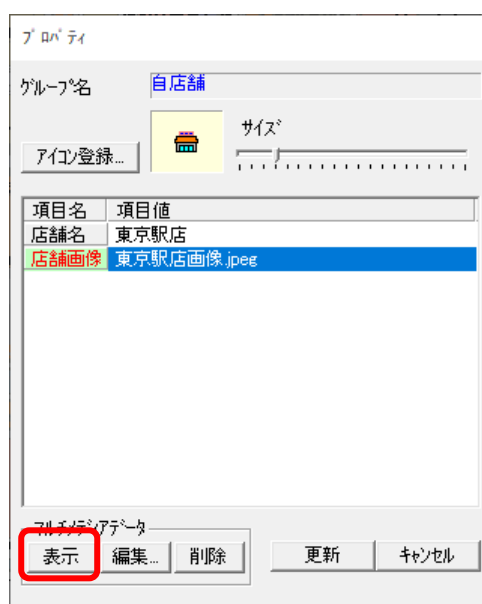
2 プロットプロパティダイアログの「マルチメディアデータ」操作エリアに「表示」ボタンを追加

プロットの属性項目を表示するには、

- ① [プロット機能][プロット属性]-地図上クリック
 - ② プロットパネル下部のプロット一覧の右メニュー[プロパティ]
- の2つがあります。

このうち、②では属性項目の編集が可能のため、プロットの属性項目として登録した画像などのマルチメディアデータを表示する、ということができませんでした。これは、編集モードになってしまうためです。

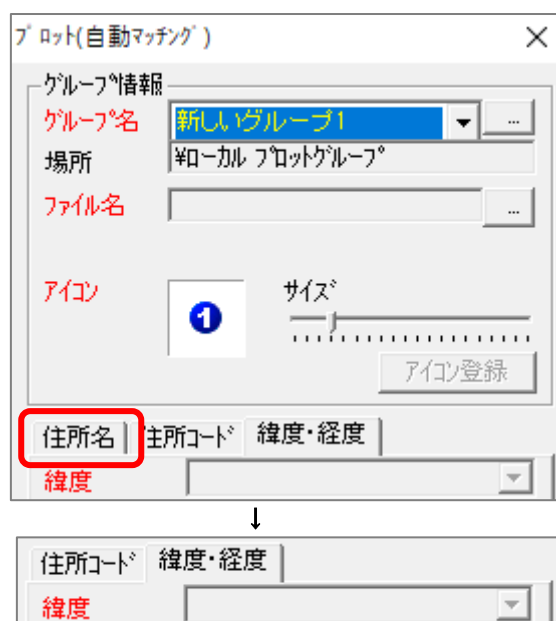
今回の改修で「表示」ボタンを追加し、マルチメディアデータを単に「表示」することを可能としました。



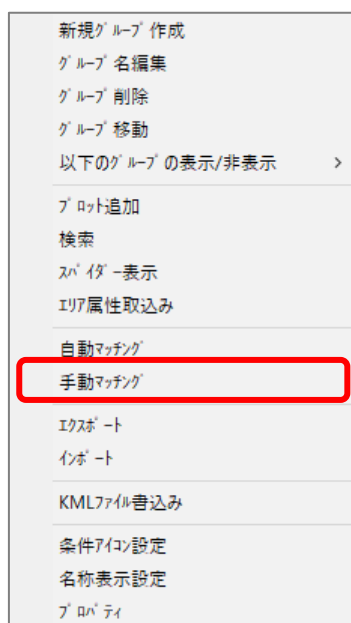
3 自動マッチングダイアログの住所名タブを削除

機能が重複しているため、プロットグループの右メニュー「自動マッチング」で表示される「プロット(自動マッチング)」ダイアログから、「住所名」のタブを削除しました。

この画面から住所名マッチングでプロットを取り込んでいた方は、今後は「住所マッチングウィザード」から行ってください。



あわせて、「手動マッチング」機能は、「住所名マッチング」でアンマッチであったものを、手動でマッチングさせるものなので、プロットグループ右クリックのポップアップメニューから削除しました。

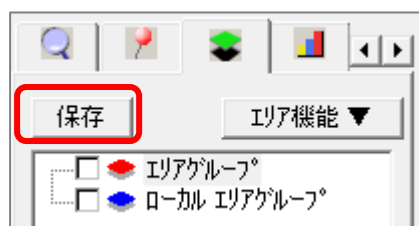


4 ローカルエリアの保存ボタンをパネル上に追加

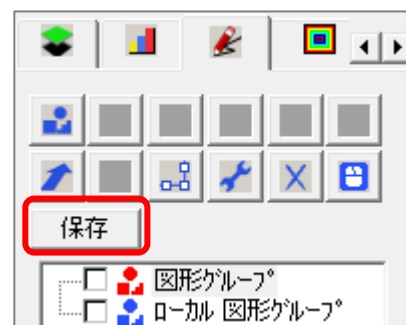
ローカルエリアは、アプリケーション起動中はメモリ上で管理され、アプリケーション終了時にファイルに書き出される仕組みになっています。

このため、アプリケーションが途中でクラッシュした場合、編集していた内容が保存されない、という問題がありました。今回の改修で、エリアパネル上に「保存」ボタンを設け、任意のタイミングでファイルへの保存を行うことができるようにしました。

(「図形パネル」についても同様に「保存」ボタンを追加しました。)



[エリアパネル]



[図形パネル]

なお、「プロット」については、追加・更新の都度、ローカルファイルに書き込みを行う仕組みとなっています。

以上